

総評

最初の3つ（FOX Works・MUNAPOKET・M-planet）が上演され、何となく共通点を感じられた。「悪（戦う相手）を倒す」

4つ目（からっかぜ）も悪とではないが、戦っていると言えば、そうとも言えるし、5つ目（浪漫座）もやっぱり戦っている。

人は戦いながら生きているんだ、と再確認した演劇祭だった。

以上 菊地奈々子

2025 浜松演劇フェスティバル「劇突」 自主公演劇評

しむ

はじめに

劇突に関わった運営、団体および観客の皆様お疲れさまでした。浜松でこのように沢山の演劇が公演されたこと、観劇できたことを非常にうれしく思います。楽しい時間をありがとうございました。

この度審査員として参加させていただきましたが、私自身、演劇歴は2年ほどでとっても素人です。そんな人間が劇評なんて書いていいのかしら、と思う気持ちもありつつ私なりに感じたことをありのまま書かせていただきました。評価というより感想に近い形になっている拙い文章になっているかもしれませんが、お許してください。

また、評価しておいてなんですが、劇を評価するというのは個人的にナンセンスなのかもという気持ちもあります。皆様が長い時間向き合って作り上げた舞台に優劣をつけることへの申し訳なさや、まったく同じタイプとは言えない演劇を同じフィールドで評価することは難しいためです。今回の劇団さんもそのような印象を受け、演劇といっても異なるジャンルで闘っているように感じました。しかし、賞を与える演劇フェスティバルということでどうしても優劣がついてしまうのでこればかりは仕方ないですね。評価はついてしましますが、劇突に参加したすべての劇団様の舞台は素晴らしいものであったということをごこの場を借りてお伝えさせていただきます。

最後に、これからも浜松での演劇活動がさらに活発になっていくことを祈っています！

「今回の劇突の審査まとめ」

いろんな動画や SNS の流行りもあってか、“身内受け”な演劇が、ここ最近、より多くなったような気がする。今回も客席にいて、「面白ろ！素人さんには分からないだろうな～」と自慢げに話している演劇関係者を見かけた。この感覚がせつかくの“演劇”の場をより狭いものにしているように感じる。演劇関係者に“受け”れば良い！なら、身内だけで発表して「良かった～」と、やっててくれれば良い。(それも一つの演劇ではあるかも知れないが...)

手間を、時間を、お金を、命を削って創った“作品たち”なのだから、いろんな方々に、知らない方々にも観ていただけたら良いのに...と。(大袈裟)

“知らない方々”は、所謂、「素人さん」も多いだろう。今、盛んに演劇をやってる誰だって初めは、皆、「素人さん」だったのに。

表現方法として“いろんな演劇”があるだろうが、どれも貴重な作品。

大都市や海外へ芝居を見に行くのも良いが、せつかく身近にある“演劇”なのだから、地に足のつけて創られたものが観られる、感じられることが、この“劇突”の強みではないのかと感じた。

滝浪倫邦(オトナ青春団)